

滝山城懐古

角光嘯堂

流離の夏愛い野がくれの青き草に潜みて

幾度か愁を寄する古の跡は寂し滝山城

花に酔い月に歌いし夢のあと

岩さびしき滝山の城

弦月淡淡として古城に沈み

虫声切切悲愁に感あり

栄枯盛衰は一場の夢

荒城悄然として月朧朧

【作者】角光嘯堂（一八八九～一九六六年）（明二十二年～昭和四十一年）京都壬生の儒家に生まれる。

九大国文科卒、文学博士、瀨淡窓の塾舎にて漢学を研究、吟詠は淡窓派・宜園（ぎえん）宗家、近代詩吟作多し。昭和四十二年没す。この「旧都の月」以外に、「桜花を讃う」「合戦川中島」などの作詞があり。

【備考】「滝山城」は、現在の東京都八王子市丹木町にあった戦国時代の日本の城である。平成二十九年、「続日本一〇〇名城」（一二三番）に選定された。一五二一年（永正十八年）山内上杉氏の重臣で、武蔵国の守護代大石定重が築城し、高月城から移ったという。一五四六年（天文十五年）、北条氏康が河越の夜戦（河越城の戦い）で扇谷上杉氏を滅ぼし、山内上杉氏の勢力を武蔵から排除すると、大石定久は北条氏康の三男・氏照を娘婿に迎え、事実上、大石氏は北条氏の軍門に下った。一五五八年（永祿元年）頃、北条氏照は城の大改修を実施した。